





















































◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

＜8月＞ 業界の景況(前月比DI値)

景況感は、夏休みによる人出増加などにより食料品製造業が好転。猛暑に伴う家電製品販売も好調だ。ALPS処理水放出による影響の不透明感、風評被害を不安視する声も聞かれる。

30以上	10～30未満	10未満 ～△10	△10超～ △30未満	△30以下
				

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		令和5年5月	令和5年6月	令和5年7月	令和5年8月
製造業	食料品製造業	 25	 25	 △ 33	 20
	木材・木製品製造業	 △ 100	 △ 100	 △ 100	 △ 100
	印刷・出版 同関連製造業	 0	 0	 0	 0
	窯業・土石製品 同製造業	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 33
	鉄鋼・金属 同製造業	 △ 33	 △ 33	 0	 0
非製造業	卸売業	 0	 △ 40	 △ 20	 0
	小売業	 △ 17	 △ 20	 △ 50	 △ 33
	商店街	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 33
	サービス業	 0	 29	 14	 14
	建設業	 △ 40	 △ 20	 △ 20	 △ 17
	運輸業	 33	 0	 0	 0
その他	 0	 0	 0	 0	

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	<p>稀にみる熱波が続き、新型コロナが5類に移行したとはいえ、味噌の需要は非常に厳しい月となった。県内では以前のような御中元の動きも少なく、全国的にも海外輸出量が低下傾向にある。</p> <p>まずは熱中症にならないよう暑い時こそ塩分を取り、胃腸の整腸作用にもなる味噌汁を1杯だけでも食べてもらえたらと願っている。来月からの需要に期待したい。</p>
水産練製品業界	<p>ひと月の電気料金が前年同月比約100万円の増加となった。</p> <p>生産数量は暑すぎて減少しており、早く秋になってほしいと願っている。</p> <p>季節のパート、アルバイトを募集しているが、社会保険加入の件もあり、フルタイムで働く人が減っている。</p>
酒造業界	<p>4年ぶりに制限のない夏祭りが開催されたことや、帰省や旅行により多くの人々が異動したことによる影響か、前年及び前月を上回る出荷数量となった組合員が多かったが、記録的な猛暑の影響を受け思ったほどの出荷増には至っていない。新瓶の入手困難な状況は継続しており、解消には1年以上を要するとの見解もある。</p>
製麺業界	<p>『秘密のケンミン Show 極』で白石温麺が放送されたことで、各社とも売上が好調だった。</p>
木材業界	<p>7月の住宅着工数は1,350戸で前月比18%減、前年同月比15%減と減少傾向にある。これまで着工戸数の多くを占めていた貸家と分譲住宅が大幅に減少している中で、木材製品の需要先である持家は前月比13%増と月を追うごとに着工戸数が増えており、今後の木材製品の需要増を期待している。</p> <p>一方、原木価格は依然として弱保合いが続いており、回復の兆しが見えない。</p>
印刷業界	<p>業況の回復状況は、取引先や事業展開によって事業所毎に異なる。経営課題は、原材料、光熱費、物流費、人件費などのコストアップ、従業員や事業資金の確保、後継者不足などが挙げられる。各社の価格転嫁は、事業戦略、デジタル化対応などの事業インフラの構築状況によって業況を左右することとなる。</p>
生コンクリート業界	<p>8月の生コン出荷量は約65.5千m³(前月比19.3%減)と前月から大きく減少した。季節要因も含まれると考えているが、前年同月比でも88.0%と振るわなかった。</p> <p>地区別では、沿岸部だけでなく仙台地区を除き前年同月比で8割以下の状況となっている。</p> <p>販売価格は、原材料費等高騰に対応した値上げが地区ごとのペースで進んでいるが、収益改善には結びついていない。</p>
コンクリート製品業界	<p>7月の出荷量は前月比106%と増加したが、前年同月比は86%、4～7月の累計も前年比91%と減少した。販売価格の値上げに取り組んでいるが、収益改善には至っていない。</p> <p>(※コンクリート製品業界は、とりまとめ時期の関係から1ヶ月遅れの報告です)</p>

砕石業界	丸森町周辺で災害復旧工事による出荷が活発であるが、県全体としては建設・土木の大型プロジェクトがなく、需要は減少の一途である。
機械金属業界 A	景況感は停滞もしくは悪化傾向にある。物価高がなお継続しており、「原材料費」、「輸送コスト」の上昇によるものなのか、ここにきて販売価格への転嫁が見受けられる。今後は物価高の影響とその対策について注視していきたい。
機械金属業界 B	大手企業の設備投資が一段落して売上が減少傾向にある。一方、原材料等の値上げや電気料金の高騰による余波が続いている。
各種卸売業界	卸売業界では、人出増加等により景況感は回復しているが、エネルギー、資源価格の上昇など、依然として不安材料は多い。 また、最低賃金の大幅な引上げを目前に控え、今後も更なる価格転嫁が必要と思われる。
再生資源業界	8月の国内鉄スクラップ市況は小幅な値上げとなった。猛暑により建物解体や工場から発生する鉄スクラップの大幅減少が全国で見られる一方、国内メーカーの生産は振るわず、需給がマッチした状況と言える。 輸出価格は上がらないものの、数量は前年を上回る状況にあり、国内メーカーは警戒感から値下げに慎重である。 古紙も生産が振るわず需要はないが、発生も少なく鉄スクラップ同様である。
繊維卸売業界	猛暑ではあったが旅行機会が増え、サマー商材が昨年より良かった。シニア中心に外出がなく、必要な商品のみが動いた。
鮮魚卸売業界	8月11日から13日、夏休みの子供たち向けに「こどもチャレンジラボ」というイベントを実施した。来場者数は3日間で4万人、イベント利用者数は3,300人となった。来場者数は4年前に比べ2割増と増加傾向にあり、4年ぶりに3世代での来場を目にするようになった。 コロナ禍のゼロゼロ融資の返済が本格化し、取引先飲食店の倒産や廃業などを耳にする。市場でも売掛金を滞納する事業者が出ており、先月も市場事業者の連鎖倒産があったばかりのため危機感を感じている。 ALPS 処理水の放出がいよいよ始まり、市場へも中国からのいたずら電話や SNS 内で市場宛に「もうひがしものは食べられない」などの発信を行なっている方も散見されるが、現時点で大きな被害もなく通常営業をしている。
鮮魚小売業界	8月は連日の猛暑や2つの巨大台風、お盆の連休も重なり、魚の入荷が少なく品揃えに苦労した。海水温が高すぎて生サンマ、サバ等の近海魚も捕れない。
青果小売業界	記録的な酷暑の影響を受け馬鈴薯、玉葱以外ほとんどの品物の入荷が激減しており、仕入れがままならず大変苦労した。さらに高温少雨で生育不良、品質劣化、価格上昇を招いており、かなり深刻な状況である。

食肉小売業界	<p>今年の盆商戦の動きをみると、売り上げとしては好調だった企業・店舗も散見されたものの、卸・小売ともに、概ね前年を下回ったように思われる。物価や光熱費、燃料費の高騰を受け、とくに和牛などの高級食材の利用頻度・量が減少し、低価格志向が強まっている。</p> <p>卸売業者は外食産業が回復していることで、外食に強い事業者は比較的好調だ。とくに観光地の顧客をもっているところが良かった。飲み会なども増えたことで繁華街向けの需要も多かった。また、これまで自粛続きだった夏祭りなどのイベントが各地で行われたことで、イベント向け商材の売れ行きも良かった。</p> <p>量販店向け卸や小売に関しては、これまでのコロナの3年間で好調だった分反動減がみられ、外食産業の回復もあり客数が減少した。しかし、地方を中心にこれまではみられなかった帰省需要を受けて、大口の注文が増加した事業者も多かった。そのほか、コロナ下では実施しづらかったバーベキューなどのアウトドア需要が増えたことにより、団体での焼き肉関連の注文に回復がみられた。</p> <p>一方、とくに西日本では、8月9～10日には台風6号が九州の一部で影響したほか、15日に関西に上陸した台風7号の影響で休業を余儀なくされる店舗も少なくなかったことで、厳しい結果になったという声が多かった。利益面では国産牛の相場自体は安かったものの、売り上げが伸びなかったことや、資材費や光熱費、燃料費の高騰の中で価格改定を行った店舗もあったが、それらをすべて価格転嫁することはできず、良くはなかったようだ。</p>
家電小売業界	<p>8月に入り本格的に夏を迎えた。猛暑が続き、エアコンをはじめとした夏物家電の売れ行きが好調であり、地域電器店は長い連休を取らず顧客対応に追われている。</p>
石油小売業界	<p>原油価格は、価格上昇や円安などを背景に、依然高値で推移している。政府はガソリンの小売価格を抑えるため、9月末で終了としていた石油元売り各社に対しての補助金支給を延長継続する方針を決定した。小売販売価格への転嫁が進み、SS店頭のガソリン価格は15年ぶりに高値となっている。まだ国の政策も不透明な部分があり、今後の状況を注視していく必要がある。</p>
花卉小売業界	<p>災害クラスの猛暑の影響から、個人事業者で店頭売りのみで生計を立てている店舗は、大型スーパー内に展開している会社の後塵を拝する形となったが、個人事業者であっても、老舗や葬儀、お墓（お寺）との取引が常態化している店は大盛況のようだ。しかし、菊は生育的に暑さに弱いため出荷が減少し、葬儀関連の会社も商品を揃えるのに苦労し、かなり高額で仕入れることになり、通常時よりも利益が少額となったとの声を耳にした。</p> <p>当店は店売りのみだが、月初及び月末は前年より売上げが大幅に落ち込んだ。お盆で若干取り返し、月全体では若干の増加という結果にはなったが、かなり厳しい状況は続いている。近所の西友やCOOPといったスーパー内の生花コーナーは、空きバケツが見られるほど売れているようで、この気候が続く限りまだまだ我慢の季節が続くと考えて</p>

	<p>いる。</p> <p>先の話になるが、9月のお彼岸もこの残暑の影響で菊不足に陥るとの見立てが聞こえている。</p>
商店街	<p>(仙台地区 A 商店街)</p> <p>インボイス制度や IT 化への対応に追われている。</p> <p>(仙台地区 B 商店街)</p> <p>新型コロナ感染が落ち着き、第 5 類に移行して商店街もイベント等により活性化するも、業種によってはコロナ禍の損失を埋めるには至らず、イベントの不参加、組合脱退、店舗閉鎖等を訴える店が出てきている。</p> <p>(大崎地区 A 商店街)</p> <p>折からの酷暑の影響で、商店街への来客数は激減した。</p> <p>恒例の「古川まつり」が 8 月 3 日、4 日の日程で久しぶりに本開催され、大勢の来客で賑わったが、既存店舗での売上には結びつかなかった。</p>
自動車整備業界	<p>業界の基盤となる車検台数に大きな減少は無いが、この夏の暑さの影響で稼働効率に影響が出ている。</p> <p>油脂類の値上げが続いているが、ユーザー価格に転嫁できず収益性の悪化が懸念される。</p>
廃棄物処理業界	<p>人員不足や労働条件、働き方改革対応による労働時間の削減により売上が低下している。今後、中小企業においてどのように人材を確保し売上を安定させていけばいいのか。</p> <p>昨年に比べ、業務量が微減している。一方、物価高により収益も低下しているなか、今後の燃料代が懸念される。</p>
警備業業界	<p>8 月はイベント警備が好調であった。コロナ禍で自粛していた外出意欲が一気に噴き出した感がある。塩釜港まつり、仙台七夕まつり、古川花火大会、石巻川開き、松島基地航空祭等々どれも例年の人出を上回った。それに伴い、警備業務・交通誘導警備業務の需要が増え、どのイベントも警備員の増員となった。イベント警備料金も上昇しており、今後はこの勢いを 10 月の最低賃金上昇に合わせた全体的な警備料金のアップにつなげたいところである。警備員の処遇改善に結びつけられれば、業界として大きな前進となる。</p>
湾岸旅客業界	<p>新型コロナの定点観測経過は、前月に増して増加している。</p> <p>売上、旅客数は、前月比、前年同月比ともに増加した。前月に続きコロナ禍 3 年を過ぎ、観光需要はコロナ前と変わらない数字に回復した。組合としては、感染症対策をやや緩和しながらも最低限の対策を行っている。</p> <p>猛暑が続いているため、熱中症対策にも十分配慮し営業をしている。</p>
ホテル・旅館業界	<p>新型コロナによる旅行への悪影響が薄くなった矢先、処理水の海洋放出が開始され、観光業を取り巻く環境は新たな課題を抱えている。</p>
シーリング業界	<p>景況は、改修リニューアル工事や修繕工事が変わらず増加傾向にあり、先々の業務量の見通しはできている。当組合として人材交流（応援等）を行い、連携を密にしてこの業務量増加への対応を図っていき</p>

	<p>たいところだが、人員確保はコスト高も相まって非常に厳しい。各社の経営状況は人員コスト高に材料の値上げの影響も加わり、厳しい状況が続いている。</p> <p>業務量が多い状況ではあるが、課題の改善に組合を上げて取り組んでいくとともに、先々のエネルギーコスト高を織り込んだ適正価格や適正工期の交渉が非常に重要であることに変わりはない。</p> <p>また、この忙しい状況は需要の先食いではないかと不安視する声も聞こえてくる。当組合として、いち早い情報の発信やどのような改善策が必要なのか知恵を出し合い、準備、実行、検証し対処していきたい。</p>
建設業界	<p>時間外労働の罰則付き上限規制の適用を令和6年度に控え、働き方や賃金、人材確保等、その対応に大きな課題を抱えている。対応するためにも民間を含む発注者の理解が不可欠であり、適正な工期や発注、施工、納期の平準化により、安定的な事業量を通年で行うことが理想となることから、発注者側の取り組みも必要となる。</p> <p>また、本年度は依然として酷暑が続いており、屋外作業となる建設現場では、休憩時間を多く確保している状況から、作業時間が短く施工効率が半減している。工期や経費の計上等も現状にあった見直しが必須であり、天候に左右される業種における賃金等の考え方も抜本的に変える必要がある。</p> <p>また県内事業量については、東日本大震災の復旧・復興事業が収束し激減状況にあることから、今後の事業経営に大きな危機感を抱いている。</p>
硝子業界	<p>人手不足が顕著となり、担い手がいない。将来この業界が継続していけるのか、時代の転換点にきている。外国人労働者や女性も積極的に雇用したいが、人が集まらない。</p>
板金業界	<p>8月の景況は、リフォーム、大型物件ともに取引は堅調だが、熱中症対策により活動が制約された。</p>
タクシー業界	<p>利用客、実車キロ数、輸送人員及び輸送収入ともに前月並みであった。</p> <p>週末の繁華街や観光目的による需要、コンサート会場への送迎に増加傾向が見られた。</p> <p>LPG 価格は前月より若干ではあるが上昇に転じ、令和3年9月と同額となっている。近年の底値の1.45倍と高値となっている。</p>
倉庫業界	<p>前月比は、全体的に入出庫量ともに増加したが、在庫量および売上高(収入)に大きな変化はない。品目別では、入出庫量ともに増加したのは、麦等の農産品、金属機械品、窯業品、食料工業品である。他の品目は、入出庫量ともに減少傾向にある。</p> <p>前年同月比は、出庫量が増加しているが、全体的に入庫量が減少し、在庫量及び売上高(収入)も減少している。品目別では、入出庫量ともに増加したのは食料工業品、ゴム製品等の雑工業品である。他の品目は、入庫量が減少し出庫量は微増で、在庫量は減少傾向にある。</p>